飛騨市・白川村議員協議会を開催

改めて平和を学ぶ

平成26年11月20日白川村議会との議員協議会が開催されました。

今回は「高山戦争を語り継ぐ有志の会」の小峠良三氏（87歳）を講師にお招きし、「平和の尊さ」をテーマに自らの戦争体験談を語っていただきました。

小峠氏は昭和18年から昭和20年まで志願兵として四国の松山海軍航空隊に入隊され、九州諫早海軍航空隊に配属されました。特攻兵としての訓練中に終戦となり、復員されています。

訓練中に攻撃に遭い、弾丸の雨の中、大事な戦友を米軍が奪ったことを忘れまいと、落ちていた薬きょうと弾を、飛行服のポケットに入れ持ち帰ったことを、涙ながらに語られました。

この日は、実際に使用していた飛行帽や手袋を持参され、操縦かんを握ったまま亡くなった戦友の思い出や、広島・長崎に原爆が落とされた時の惨状などを語られました。

持参された飛行帽と手袋

「死を覚悟して戦地に出向き多くの戦友が亡くなったのに、自分だけが生きて帰っていいのだろうか。」と今も複雑な気持ちが心をよぎるそうです。

また、昭和20年8月10日、特攻の待機命令が出されたときは、いつでも出られるように、ずっと飛行服を着て待機していた。思い浮かぶのは母親の顔ばかりだったそうです。前日長崎に落とされた原爆の「きのこ雲」を見て、負けを確信していたとも語られました。しかし出撃命令は出ず終戦を迎えたということでした。

小峠氏は小中学校での講演も行っておられます。中には「どうしてわざわざ死ににに行くの？」と疑問を投げかける子供もいるようです。

今の平和な時代の前には、あの悲惨な戦争というものがあった。それだけでも聞いてもらわなければと話されました。

多くの方たちの尊い犠牲のもとに、今日の平和と安定があることを改めて考えさせられる機会でありました。

小峠さんにはこれからも語り部として、戦争を知らない世代の人たちに伝え続けてほしいと願っています。

時にユーモアを交えながら
熱く語る小峠良三氏

飛騨地域議員研修会を開催

平成26年11月26日、飛騨地域3市1村議員研修会が白川村「トヨタ白川郷自然學校」で開催されました。

講師に白川郷自然學校長の浅野能昭氏をお招きし、「自然ネットワーク活用による地域創生について」と題して、環境庁出身者ならではの観点からの話を伺いました。

飛騨地域は自然・文化資源の宝庫で大変魅力のある地域だが、首都圏方面への情報発信・浸透はまだまだ不足である。しかし、北陸新幹線開通は大きなチャンスと説かれました。

日々の生活に慣れ、魅力ある地域の自然・文化資源が自分たちの周りに数多くあることをお聞きし、普段から自分たちの住む地域を意識し、客観的な広い視野を持つことの大切さを改めて感じました。

編集後記

昨年の秋、焼岳に一番近い所に設置された砂防堰堤を見学する機会を得た。もくもくと噴煙を上げている焼岳は紅葉が包みこみ日本の四季の素晴らしさを見ているようで、自然の驚異を感じませんでした。

しかし、頑丈な砂防堰堤を見ると、活火山焼岳が大小の噴火を繰り返し、住民の生命や財産を脅かした火山災害の恐ろしさを強く感じました。

御嶽の突然の噴火で、多くの人の生命を奪った災害もこの秋に起こった大きな脅威でした。飛騨市でも夏の豪雨災害や暮れの豪雪と異常気象の現実は住民の安心を揺るがす重要な問題となっています。

今年は、阪神淡路大震災より20年の節目、東日本大震災より4年経過しますがいまだに傷痕の残る心を痛めた大きな脅威です。

日頃から、地震や洪水等自然の脅威による被害を想定した備えが被害を最小限にするためにも重要です。

（洞口　和彦）